スポーツかごんまNEWS
http://www.spokago.com
SPORTS Kagoshima KAGOSHIMA

九回2死、脅威の粘り

逆転サヨナラ！

隼人工

スポ鹿

号外

◇4回戦（鴨池市民）
れいめい　400　110　000＝6
隼人工　003　000　103＝7

第122回九州地区高校野球大会鹿児島県予選第10日は4月3日、鹿児島市の県立鴨池、鴨池市民の両球場で4回戦4試合があった。第4シード隼人工は4―6の2点ビハインドで迎えた9回裏にスクイズと吉村康博の左前適時打で3点を挙げて、れいめいに逆転サヨナラ勝ちした。【政純一郎】

「苦労した経験」生かす

隼人工が9回裏、2点差をひっくり返し、劇的な逆転サヨナラ勝ちで2季連続の8強入りを決めた。西垣浩希監督は「初戦から苦しい戦いの連続だが、苦労して勝ち上がってきた経験を生かすことができました」と胸を張った。

先発の岩城直人が立ち上がりリズムをつかめず、4点のビハインドを背負った。初回から千ス阿部淳希をマウンドに送って立て直し、3回には相手の千ス平石の制球難にもつけ込んで1点差まで詰め寄るも中盤突き放され、なかなか劣勢の展開を挽回できない。それでも「練習試合でもこういう試合を何度も経験していた。今大会も初戦から苦しい試合の連続で『つれるのはうちのペース』と信じることができた」（西垣監督）。我慢したことが終盤に生きた。

代打・加塩優大が右前に運び、続く阿部、代打・徳留貴洋が粘って四球を選び、一死満塁とビッグチャンスを作る。西垣監督は打席に向かう9番・野村尚紀を呼び寄せる。

「ミスしても俺の責任だから初球スクイズを一塁方向に決めて来い！」

一死満塁でスクイズを決めるのは至難の技だが、野村は初球の変化球を注文通り一塁方向に決め1点差とした。

監督さんとチームを信じて無心で決めました

と野村。逆転サヨナラ劇のお膳立ては出来上がり、1番・吉村康博＝**左写真の右端**＝が2―0と追い込まれてから2―3まで粘り、最後は外角直球を注文通り左方向に流し打ち、チームの信頼に応えた。

追い込まれたけど、外の直球だけを待っていた。チームを信じて気持ちで打ちました（吉村）